

恵庭ふるさと公園実施設計



ワークショップ報告書



平成30年度
恵庭市



目 次

1	ワークショップ開催の目的	1
2	ワークショップ概要	2
2-1	ワークショップ参加者の選定	2
2-2	各ワークショップの目的及び内容	3
2-3	第5回ワークショップ	4
2-4	第6回ワークショップ	6
2-5	第7回ワークショップ	8
2-6	第8回ワークショップ	10
2-7	ワークショップまとめ	12
2-8	地域説明会及び利活用ヒアリング	14
3	今後に向けた課題	18
3-1	市民協働型の管理運営に向けて	18



1 ワークショップ開催の目的

本公園は、地区公園として災害時の避難空間の形成や防災性の向上、レクリエーションや自然とのふれあいの場の創出、潤いのある都市景観の形成など多様な機能や役割を担っており、市民に長く親しまれてきました。

一方、1992年（平成4年）の供用開始から26年が経過し、施設が老朽化したことに加え、樹木が大きく成長したことによる数々の問題が指摘され、さらに周辺環境や社会状況の変化により、地元住民や利用者が公園に求める機能や内容も大きく変化してきました。

このような背景を踏まえ、本公園は平成29年に地域の緑のシンボルである公園の魅力を再認識し、安全で快適な公園環境整備と改善、また豊かで潤いのある生活と都市環境の形成を図ることを目的として、「恵庭ふるさと公園再整備基本計画」が策定されました。また、基本計画の策定において、市民参加によるワークショップを4回開催し、再整備に向けた基本方針や、今後の管理・運営についての話し合いが進められてきました。

恵庭市は、平成30年の実施設計の策定にあたり、基本計画で整理した基本理念や基本方針、またこれらを具現化するための整備方針を踏まえつつ、より具体的な施設整備の内容や規模における合意形成、将来的な市民協働型の管理・運営に向けた話し合いを行うことを目的として計4回のワークショップを開催しました。

恵庭ふるさと公園ワークショップ開催フロー

基本計画策定時（平成29年開催）

第1回ワークショップ

- ・ 事業概要、WS目的の把握
- ・ 現状の問題点や課題の共有（現地フィールドワーク）

第2回ワークショップ

- ・ 再整備、利活用におけるキーワードの共有
- ・ ゾーン毎のイメージの共有

第3回ワークショップ

- ・ 再整備、利活用における具体内容の掘下げ
- ・ ゾーン毎の規模、導入施設イメージの共有

第4回ワークショップ

- ・ 再整備における基本方針と計画案の共有
- ・ 市民協働型の管理・運営について検討

実施設計策定時（平成30年開催）

第5回ワークショップ

- ・ 既存樹木の整理内容の確認
- ・ みどりに関するテーマにおけるイメージの共有1（現地フィールドワーク）

第6回ワークショップ

- ・ みどりに関するテーマにおけるイメージの共有2

第7回ワークショップ

- ・ 導入する施設内容における共有

第8回ワークショップ

- ・ 最終計画案の合意形成
- ・ 市民協働型の管理・運営について検討

2 ワークショップ概要

2-1 ワークショップ参加者の選定

本ワークショップの参加者は、昨年のワークショップから引き続き参加していただいた方の他、より幅広い視点からの意見を取り入れるべく、昨年ワークショップ参加者の推薦で新たな参加者を募りました。また、昨年のワークショップでは、若い世代の意見や考え方を取り入れたい意見が多く挙げられた事から、北海道文教大学の学生にも参加していただく事としました。

以下にワークショップ参加者一覧を示します。

分類	氏名	性別	継続・新規	参加			
				第5回WS	第6回WS	第7回WS	第8回WS
地域活動団体	小山 忠弘	男	継続	○	○	○	○
	久保 純一	男	継続	○	○	○	○
	水野 莉穂	女	新規	○	—	—	—
花関係団体	池永 允子	女	継続	—	○	○	—
	伊賀崎 淑子	女	継続	—	○	○	○
	菅田 裕子	女	新規	○	—	○	—
公園利用団体	鈴木 祥江	女	継続	○	○	—	○
	太田 実保	女	継続	—	—	○	○
	勝呂 由紀	女	継続	○	○	○	○
	山本 沙織	女	新規	○	○	○	○
	竹中 博彦	男	新規	○	○	—	—
教育関連団体	村松 良太	男	継続	○	○	—	—
	渡邊 梓	女	新規	—	○	—	○
	多田 亮介	男	新規	—	○	—	○
地域住民 (商店街)	行澤 勇	男	継続	—	—	○	○
	村上 久之	男	継続	—	○	○	—
地域住民	貞広 博	男	継続	○	○	○	○
	松本 博	男	継続	○	—	○	○
	土居 勉	男	継続	○	○	○	—
	笠井 登	男	継続	○	○	○	○
	宮本 哲郎	男	新規	—	○	○	○
	結城 健介	男	新規	—	○	—	—
	石丸 敢大	男	継続	—	○	—	—
文教大学生	木村 くるみ	女	新規	—	—	—	—
	河野 宏綺	男	新規	—	○	—	—
	尾崎 圭之助	男	新規	—	○	—	—
	梶田 あすか	女	新規	—	—	○	—
	清田 佳凜	女	新規	○	—	—	—
	鈴木 悠朔	男	新規	—	○	○	○
	山口 健太	男	新規	—	○	—	—
計			継続15名 新規15名	14名	22名	17名	15名

2-2 各ワークショップの目的及び内容

本ワークショップは、再整備における本公園の基本理念や基本方針を踏まえ、最終計画案の合意形成を目標として、体系的に議論が積み上がっていくよう進めていきました。また、単に再整備における施設整備内容についての話し合いではなく、再整備後の公園との関わり方や市民協働による管理・運営を常に意識した話し合いとなるよう進めました。

今回からワークショップに参加する方々には、スムーズにワークショップに参加できるよう、昨年までに整理された基本理念や基本方針などを主とした事前説明を個別に行いました。

	開催日	場所	目的	開催内容
第5回 ワークショップ	8月25日	中島会館 恵庭ふるさと公園	<ul style="list-style-type: none"> 再整備におけるみどりに関するイメージを共有する 既存樹木の整理内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念、基本方針の再確認 現地確認による既存樹木整理内容についての話し合い みどりに関する（カシワ林林床植栽、学園通り植込み植栽、堆肥スペース）イメージについての話し合い
第6回 ワークショップ	10月4日	中島会館	<ul style="list-style-type: none"> 再整備におけるみどりに関するイメージを共有する 望みの丘の法面形状のイメージを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 第5回WSのふりかえり みどりに関する（広場空間、堆肥スペース）イメージについての話し合い 望みの丘の法面形状についての話し合い
第7回 ワークショップ	11月2日	中島会館	<ul style="list-style-type: none"> 導入する施設イメージを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 第6回WSのふりかえり 舗装材や休憩施設などの配置場所、大まかな規模（数量）についての話し合い 地域参加型の施設づくりについての話し合い
第8回 ワークショップ	12月7日	中島会館	<ul style="list-style-type: none"> 最終計画案の合意形成 持続可能な地域参加型の管理・運営についての話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> 第7回WSのふりかえり 最終計画案についての話し合い 地域参加型の管理・運営についての話し合い

■平成 29 年のワークショップで整理した再整備における基本理念及び基本方針

☆ 恵庭ふるさと公園基本計画の概要

Basic principle—基本理念

～地域コミュニティをつなぎ次世代に引き継ぐふるさと公園～

“らしさ” が感じられるみどりと花の景観づくり

- 地域のシンボルである良好な緑を活かした、新たなみどりと花の景観づくりを進め、他の花の拠点との差別化を図る。
- 花苗の生育や地域住民による植栽など、地域が中心となった“花育”の取組みを進める。

新たな地域のにぎわい拠点（顔づくり）の創出

- 様々な地域活動を促す空間を確保し、利用者の価値観や思いを共有する交流の場を創出。
- 誰もが立寄りやすい明るく開放的な空間とし、潜在的ニーズへの対応と地域コミュニティの活性化を進める。

地域参加型による持続可能な管理・運営

- 地域住民や商店街、また市民活動団体などが公園の運営管理の一部に携わることのできる仕組みづくりを進める。

2-3 第5回ワークショップ

第5回ワークショップ	
開催日時	平成30年8月25日 9時～12時（3時間）
開催場所	恵庭ふるさと公園及び中島会館
参加人数	恵庭市役所：4名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：5名 ワークショップ参加者：14名
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・再整備におけるみどりに関するイメージを共有する ・既存樹木の整理内容の検討
提示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画概要（基本計画図、基本理念、基本方針）一覧 ・樹木整理図（案） ・学園通り植込み植栽参考写真一覧

第5回ワークショップでは、平成29年に策定した基本計画及びワークショップの内容についてふりかえりを行い、今年話し合う具体的な内容について説明を行いました。

また、現地で既存樹木の伐採予定樹木や、芝生広場の空間把握、新たに整備する散策路のルートなどについて確認を行い、グループ討議を行いました。



■提示資料抜粋



第5回ワークショップでの主な意見一覧

☆ 既存樹木の整理及び広場空間について

樹形に特色のある樹木は公園のシンボルとして残したい。
伐採してしまうと復元できないので慎重な議論が必要。⇒伐採を段階的に行うことはできないか？
伐採しすぎではないか⇒見通し確保であれば伐採でなく剪定（枝払い）でも良いのでは。
芝生広場として多目的な利活用を進めていくためには、樹木はもっと伐採するべき。
⇒今後の利活用内容を再度整理して、必要な芝生の大きさを考える必要がある。

☆ カシワ林の林床のイメージについて

ニホンスズランの樹種選択はふるさと公園らしくて良いと思う。
ニホンスズランを植えるなら、群落となるまでは無くなりやすいので固めて植えた方が良い。

☆ 学園通沿いの植え込み植栽のイメージについて

一番魅せたい時期は「夏」「黄金」を意識した黄色をイメージ。
黄色を基調とした配色。⇒春から秋まで花期の長い「マリーゴールド」が良いのでは。
周辺樹木との調和が図れば色にこだわる必要はない。
管理⇒管理分担をして責任を持って維持管理できる体制づくり。
植え込み周辺にはベンチ等の休憩施設を配置。
具体的な植栽計画は専門家に検討してもらった方が良い。

☆ 堆肥スペースのイメージについて

堆肥なのか腐葉土を作るのか整理が必要。
堆肥スペースは1箇所では少ない。5～6箇所は必要でないか？ 重機を使用して切り返しを行う。
住宅地から離すなど臭いなどの配慮が必要。 配置は基本計画案に示した場所が良いと思う。

第5回ワークショップのまとめ

芝生広場の空間イメージでは、芝生広場として確保する大きさと、残す既存樹木とのバランスについて様々な意見が挙げられました。また、堆肥スペースについては、将来的な運用方法や地域参加による持続性などについても意見が挙げられました。

本公園の貴重なみどりと今後の利活用としての広場のあり方について、もう少し話し合いが必要だとの意見が多いことから、次回のワークショップで再度話し合うこととしました。

2-4 第6回ワークショップ

第6回ワークショップ	
開催日時	平成30年10月4日 19時～21時（2時間）
開催場所	中島会館
参加人数	恵庭市役所：4名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：6名 ワークショップ参加者：22名
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・再整備におけるみどりに関するイメージを共有する ・堆肥スペースのイメージについて共有する ・望みの丘の法面形状のイメージを共有する
提示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回ワークショップ意見集約一覧 ・芝生広場イメージ写真 ・堆肥スペースの施設規模及び施設整備箇所案 ・望みの丘敷地形形状検討案

第6回ワークショップでは、前回のワークショップでの意見を踏まえ、芝生広場の空間イメージ（大きさや既存樹木の密度）や、堆肥スペースの規模などについて再度話し合いました。また、望みの丘の敷地形形状についても、現況測量を踏まえた改修案を確認しながらグループ討議を行いました。



■ 提示資料抜粋



第6回ワークショップでの主な意見一覧

★ 既存樹木の整理と広場空間について

わくわくする場所が必要である。ふるさと公園は屋外子育て支援の役割を持たせる事が大事である。幼児教育無償化によって5歳以下の子どもが保育園等に通うことになるため、ふるさと公園で“保育園には無いことができる”と思えるような広場となれば良い。

A案のような広い広場で行われるイベントは、黄金学園通からの視認性が確保され、通行する人も興味を持つ。広い広場は野外音楽イベントに活用しやすい。

広い広場は、有事の際の避難場所としても活用しやすい。公園全体のバランスを考えた時に、広い広場があったほうが北側のカシワ林との対比がはっきりし、メリハリのある空間ができる。

黄金地区にとどまらず、広く市民が参加できるイベントができる広場が望ましい。

★ 堆肥スペースのイメージについて

規模が大きい堆肥スペースであれば、集めた落ち葉の用途は、腐葉土として公園内や近隣住民に配るだけでなく、秋の焼き芋イベントへの活用など多様な使い方が出来る。

堆肥スペースに地域の人々が自ら自由に落ち葉を入れ、自由に腐葉土を自宅に持ち帰れる仕組みにすれば、落ち葉に対する苦情は減り、公園に愛着を持ってくれるようになる。

秋の焼き芋イベントを落ち葉拾いから始めれば、参加者の楽しみも広がる。

堆肥スペース設置の意見は、昨年の議論で地域に愛着を持ってもらうためのアイデアの1つとして出た意見であることから、規模の大小に限らず実現したい。

★ 望みの丘の法面の形状について

飲食店と広場が一体的に整備されることで、イベントの可能性が広がり、さらに斜面に観覧スペースがあれば飲食店、広場、観覧とさらに利用範囲が広がる。

B案もC案もメリットデメリットがあるが、〇〇をしたいから・・・という発想で考えるのではなく、場所があるから△△出来るという考え方で良いと思う。従ってC案としたい。

C案はソリ遊びに不向きだが、イベント時には雪の搬入によりフレキシブルに対応できる。

C案のように広い斜面の方が、冬季の利用や広場との一体的利用など、利用頻度は高い。

第6回ワークショップのまとめ

芝生広場の空間イメージでは、本公園が有する巨木や大木をバランスよく残しながら、多様な利活用に対応できる広場として、A案を基本として考えていくこととなりました。堆肥スペースについては、試行的に進めながら、ニーズの高まりに応じて規模の増設を行うこととしました。望みの丘の法面形状については、芝生広場との一体的な景観構成や多様な催しなどにも対応しやすいC案を進めることとなりました。

みどりに関する話し合いは、ある程度合意形成が図れたことから、次回のワークショップでは導入する施設内容について具体的な話し合いを行うこととしました。

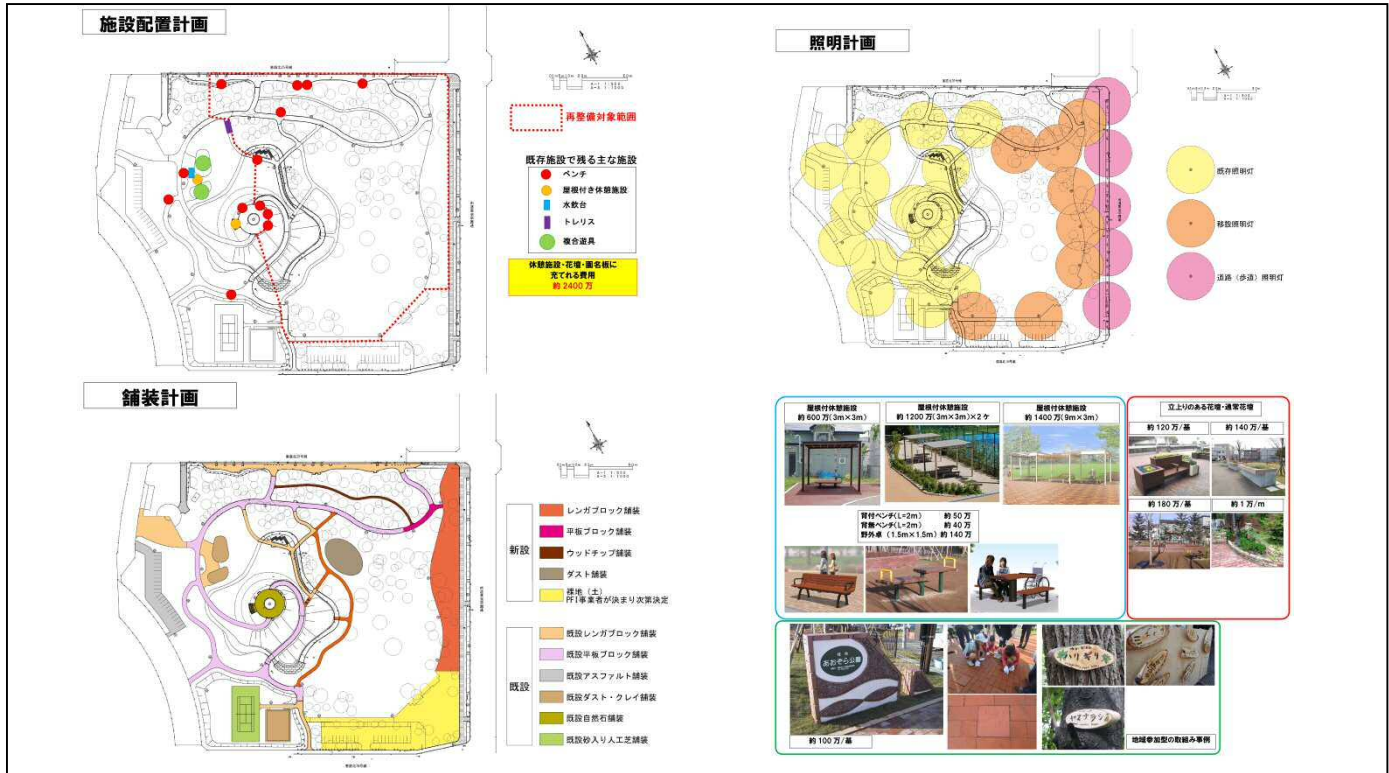
2-5 第7回ワークショップ

第7回ワークショップ	
開催日時	平成30年11月2日 19時～21時（2時間）
開催場所	中島会館
参加人数	恵庭市役所：4名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：6名 ワークショップ参加者：17名
開催目的	・ 導入する施設イメージを共有する
提示資料	・ 第6回ワークショップ意見集約一覧 ・ 施設計画配置白図 ・ 舗装計画・照明計画図（案） ・ 導入施設イメージ写真

第7回ワークショップでは、導入する施設の内容や規模について話し合いを行いました。グループ討議の前には、施設に充てられる概ねの予算を理解していただきながら検討していただきました。また、参加者の方で子育て世代が求めるニーズについて資料をまとめたことから、発表の場を設けるとともに、これらも含めた施設整備内容について話し合うこととしました。



■ 提示資料抜粋



第7回ワークショップでの主な意見一覧

★ 導入する施設について

- 車イスの人も利用しやすい配慮が必要。
- 園路沿いや広場には、ベンチやスツールなどの休憩施設を多く配置して休憩できる場所を多く確保したい。場所によっては、伐採する樹木を再利用したスツールなどを設置する工夫が必要。
- 用途が1つのものでなく、多様に利用できるものが良い。
- 公園の沿革を伝える記念碑は必要。園内板などと併設する方法もある。
- 屋根付きの休憩施設は、公園内に大きな樹木の木陰を利用すれば要らないのではないか。柱のみ常設し、屋根はタープなどを必要に応じて設置できるようにしてはどうか。
- 黄金学園通りは学生も多く通るので、雨宿りのできる屋根付きの休憩施設があると利用できる。
- 屋根付き休憩施設は1~2箇所必要。
- 黄金学園通り沿いの植込み植栽は、障がいのある子どもも花や土に触れあえるようにしたい。
- 土いじりをした後に手洗いが出来る水飲台が必要。水飲台は、黄金学園通沿いの広場とカシワ林付近に必要。
- 費用対効果を考えると、休憩施設を多少減らしコンビネーション遊具を整備するのも良いと思う。
- コンビネーション遊具は、プレーパークの活動時に遊んでいるようなものが良い。乳幼児も遊べるもの。
- 照明灯の配置計画は良いと思う。子どもたちが参加できる施設づくり（園名板づくりなど）は、良いと思う。

★ 舗装材について

- 水路沿いの園路は、周辺の木々や芝生広場との景観との調和を考え、ウッドチップ舗装が良い。
- レンガブロックやインターロッキングブロックは将来がたつきやすいので良くない。

★ その他

- 今回の再整備を機に、公園の名前を変更してみたらどうか？
- トイレはP-PFIとは切り離して整備を考える必要があるのではないか？

第7回ワークショップのまとめ

導入する施設内容を考えるにあたり、予算が限られていることから、施設整備が特に必要と思われる“公園の顔となる空間”と、施設整備は必要最小限に留め、“良好なみどり景観を活かした空間”を分けて考える必要があるとの意見が多く挙げられました。また、子どもなどが自ら参加して作る施設（園名板や樹名板など）や公園の歴史を伝える記念碑の必要性を望む意見が挙げられました。複合遊具の整備については、予算内で配分が可能であれば検討するとの意見が多く挙げられました。

次回のワークショップでは今までの話し合いを踏まえた最終計画案を確認するとともに、今後の公園との関わり方について話し合いを行うこととしました。

2-6 第8回ワークショップ

第8回ワークショップ	
開催日時	平成30年12月7日 19時～21時（2時間）
開催場所	中島会館
参加人数	恵庭市役所：5名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：6名 ワークショップ参加者：15名
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・最終計画案の合意形成 ・持続可能な地域参加型の管理・運営についての話し合い
提示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回ワークショップ意見集約一覧 ・最終計画案 ・コミュニティ広場拡大図・イメージスケッチ ・コミュニティ広場植込み植栽参考事例

第8回ワークショップでは、これまでの話し合いを基に作成した最終計画案について確認を行うとともに、黄金学園通り沿いの「コミュニティ広場」の植込み植栽については、地域協働による管理の先行事例を紹介しながら、空間イメージについて話し合いを進めました。また、再整備後の公園において、地域がどのように関わりを持つことが望ましいのか、時間を多く割いてグループ討議を行いました。



■ 提示資料抜粋

☆ 導入施設の基本的な考え方

○ ふるさと公園のそれぞれの役割・機能に応じた施設整備

【学園通り沿いの広場】～アーバン

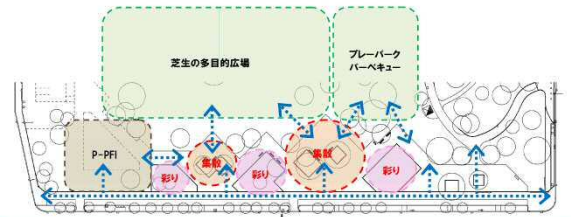
公園の新たな顔となる空間→利用者の集散や賑わいのある場所
誰もが利用しやすい空間→障がいの有無に係らず楽しめる場所
地域外・市外の人も訪れたい空間

⇒常設を基本とした施設整備

【プレーパーク・カシワ林周辺散策路】～ネイチャー

カシワ林を始めとする既存樹木が残る空間→より自然度の高い場所
原風景の面影を感じる空間→必要最低限の施設と自由度の高い施設
⇒常設の施設は最低限とし、今後の活動状況にあわせフレキシブルに展開（丸太のベンチ・切株ツールなど）

コミュニティ広場について～ゾーニング



☆ 配置の考え方

- 利用者の集散の空間と彩りを成す空間を大きく区分
- 植込み植栽は一つ一つを大きく確保し、広場全体で緑の風景を魅せる
- 通り抜けではなく、滞在しやすい“たまり”の場所を確保
- 休憩施設は着着きやすいよう、公園側に配置

形態ふるさと公園最終計画案



コミュニティ広場拡大図



第8回ワークショップでの主な意見一覧

☆ 最終計画案について

- 今までの話し合いが整理された計画案になっているので良いと思う。
- 導入施設の考え方については良いと思う。
- コミュニティ広場の植込み植栽については、地域で楽しみながら進めていきたい。
- 計画案に対して子どもたちの意見も聞く場があると良いのではないかな。
- コミュニティ広場には、多様な催し時に使用できるコンセントが必要。

☆ 今後のふるさと公園との関わりあいについて

- 『恵庭ふるさと公園ファンクラブ』的な組織が必要でないか。
- 持続的に地域が運営や管理に携われるような組織づくりを考えたい。
- 組織化することで自分たちにもメリットにもなるし、地域づくりにもつながる。
- 昨年に行ったワークショップに参加して大変有意義であった。ワークショップ参加者が中心になって組織化に向けた準備委員みたいなものを考えたい。
- 今後も公園に携わってもらえそうな人に対して、積極的なアプローチが大事。
- 管理・運営の中心は、市役所や指定管理者になる。その中で運営の一部を地域などが携わっていくのが現実的である。あまり無理をすると長続きしない。
- 公園に携わっていききたい人は沢山いるが、誰かがリーダーにならないと進まない。
- 再整備までの間に時間があるから、公園を使った利活用の取組みを進めながら、今後もこのような集まりを定期的に持ちたい。
- 楽しみながら、目標を立てて進めていく事が大事である。

第8回ワークショップのまとめ

最終計画案については、概ねの合意形成を図ることができました。今後は、複合遊具施設などについて地域の子どもの意見も聞く場を設け、施設内容の充実を図ることとします。

今後のふるさと公園との関わりあいについては、公園の活用などを通して地域がフレキシブルに管理や運営に携わりたい意見が多く挙げられました。一方で考え方には賛同するが現状では時期早々であり、今後もこのような話し合いの機会を持つ必要性も挙げられました。

2-7 ワークショップまとめ

本公園の再整備に向けたワークショップは、平成 29 年度、平成 30 年度の 2 年間に計 8 回開催しました。本ワークショップに参加した方々は、本公園に対する関心や意識が非常に高く、地域にとってより身近で親しみの持てる公共空間としてどうあるべきか、また公園の利活用や管理を通してどのように地域が携わっていくべきかを深く考えるワークショップになったと思います。

また、黄金北町内会及び黄金中央町内会の合同による冬フェスの開催や、春の懇親会、ワークショップ参加者の企画による公園利活用をテーマとしたフォーラムの開催など、本ワークショップの枠を超えた新たな取り組みも自主的に行われました。

このような取り組みや活動を今後とも進めていく中で、本公園との持続的な関わり方における話し合いが深まっていく事が期待されます。

**黄金北町内会
黄金中央町内会
合同イベント!**

2/4日
午前10時～午後9時
※本日は駐車場の確保のため、2階15000台駐車します

**恵庭
ふるさと公園
黄金ふゆ
フェスタ**

公園の溜氷止壁から下までべっちょ滑り
チューブ滑り
※チューブは用意します。滑り手はご自身です。

ふるさと公園が
幻想的に登場!
キャンドルナイト
※日没以降はランタンライトのみで照明を行います。滑り手はご自身です。おはしは15分間隔で交換します。

みんなでイグルー作り
挑戦しよう!
**イグルーを
作ろう!遊ぼう!**
※イグルーの作り方は、事前から配布するチラシにてご確認ください。

雪を削って雪像を作ろう!
ミニ雪像づくり
※雪像は1月15日(日)まで本公園の溜氷止壁の周辺に設置します。1月16日(月)以降は回収いたします。おはしは15分間隔で交換します。おはしは15分間隔で交換します。

主催 黄金北町内会・黄金中央町内会
共催 恵庭ふるさと公園協議会
協賛 (株)旭建設建設株式会社・NPO法人ふるさと未来センター
実行委員会 恵庭市市民会館2F大会議室

問い合わせ
黄金北町内会 倉本 幸子
黄金中央町内会 倉本 幸子
平日 090-8278-8745



公園経営学校in恵庭

聞いてみよう
**だれもが
わくわくする
公園の
使い方**

公園が
まちづくりの
主役になる?

まちづくり
のなかで
公園が
どうなるの?

地域で
子育てする
環境を公園で
作れるのかな?

楽しい
イベントが
してみたい!

NPOが行っている
事例を紹介します!

**と き:7月18日(水)
15:00～17:00**

**と ころ:恵庭市民会館
2F大会議室**

交流会:17:15～18:15

主催 恵庭市市民会館
共催 恵庭市建設部管理課
協賛 恵庭市教育委員会・後援 恵庭まちづくり実行委員会

お問い合わせ
恵庭市市民会館
市民会館2階2F大会議室
TEL:090-8278-8745
FAX:0123-36-8001

公園経営学校交流会に参加します。●お申し込み番号は、0123-36-8063●お問い合わせ先



恵庭ふるさと公園最終計画案



コミュニティ広場拡大図



2-8 地域説明会及び利活用ヒアリング

本ワークショップでまとめた、最終計画案の内容や今後の事業スケジュール、また再整備後の公園をフィールドとした利活用の意見やアイデアを聴衆聞き取りを目的として地域説明会及び利活用ヒアリングを実施しました。

	開催日	場所	開催内容
地域説明会 (黄金中央カリンバ会)	2月18日	黄金ふれあいセンター	<ul style="list-style-type: none"> 再整備におけるワークショップ内容の報告 再整備計画内容の説明 今後の事業スケジュールの説明
利活用ヒアリング	2月20日	恵庭小学校	<ul style="list-style-type: none"> 再整備計画内容の説明 利活用アイデア・意見の聞き取り 施設整備の要望聞き取り
	2月22日	恵明中学校	

【地域説明会】

地域説明会は、黄金中央町内会の老人会（黄金中央カリンバ会）の方々を対象に行いました。当日は、30名前後の方々にご集まりいただき、本公園の再整備計画策定までのプロセスや具体の計画内容について熱心に確認されていました。



【利活用ヒアリング】

公園再整備後の利活用や施設整備に関する意見や、アイデアを聞き取るヒアリングを恵庭小学校の児童会役員 5 名、恵明中学校の生徒会役員 11 名を対象に行いました。

ヒアリングは 30 分程度の短い時間ではありましたが、子ども目線で感じている公園に対する思いが伝わる意見やアイデアを多く聞き取ることができました。

本ヒアリングで挙げられた意見やアイデアについては、組織化に向けた準備会メンバーとなる方々へ報告することとします。



○ 恵庭小学校で挙げられた意見・アイデア

◆ 遊具に関して

- ・ 丸太渡りがほしい。
- ・ 山の山頂から滑り降りる滑り台がほしい。
- ・ 既存木製遊具で遊んでいて、指にささくれが刺さった。改善してほしい。
- ・ 既存遊具のトンネル内でお菓子の袋が落ちていて汚い。
- ・ 既存遊具は壊れているところが多い。ネットは糸がほつれている。
- ・ 既存遊具を早く新しい遊具に更新してほしい。
- ・ 現在ブランコがないので、設置してほしい。
- ・ 既存遊具は大きな子ども向けなので、小さい子どもでも遊べる遊具がほしい。
- ・ ターザンロープがほしい。

◆ 公園施設に関して

- ・ 陸上（少年団）の自主練習のため、ランニングコースを整備してほしい。
- ・ ランニングコースの舗装面は、ウッドチップまたはゴムチップ。
- ・ 広い敷地を活かしてマラソン大会を開催してほしい。
- ・ ランニングのために距離板を設置してほしい。
- ・ 野球（少年団）の自主練習のため、大きな壁（壁当て）を整備してほしい。
- ・ トイレが暗く、汚いイメージがある。明るくしてほしい。
- ・ ドッジボールのコートを整備してほしい。（芝生では線が引けないため）
- ・ バスケットボールのコートを設置してほしい。年齢に併せて高さが違うものがあれば、なお良い。
- ・ 噴水に昇る階段が危ない。きれいなものに整備しなおしてほしい。
- ・ 夜は通りたくない。以前は墓地だったので怖い。お化けのうわさも聞く。
- ・ 木を伐採して公園が明るくなるのは良いが、自然環境を残してほしい。
- ・ 池をきれいにし、今後も保全してほしい。
- ・ 黄金学園通からは、どこからでも入るようにしてほしい。
- ・ 自動販売機を設置してほしい。

◆ 利活用に関して

- ・ 大きな広場で夏祭りを開催してほしい。
- ・ 夏祭りでは、子ども屋台をやりたい。（チェコバナナ、焼き鳥など自ら売りたい）
- ・ 木登りができる木があれば遊びたい。
- ・ 駄菓子屋が近くにあり、園内にゴミが目立つ。
- ・ 小学生を集めてごみ拾いをやってもいい。
- ・ 落ち葉を集積した山で遊びたい。

○ 恵明中学校で挙げられた意見・アイデア

◆ 利活用に関して

- ・ 恵庭ふるさと公園を最近是利用していないが、小学生の頃はよく遊んだ。
- ・ 望みの丘頂上で花火大会をやりたい。火事が怖いので打ち上げではなく小学生を対象とした手持ち花火大会。噴水もあり安全。
- ・ 広い芝生広場で冬期に雪合戦大会、綱引き大会をやりたい。
- ・ 芝生広場でヨガやラジオ体操を企画したら良いと思う。
- ・ 園路で若者向けにマラソン大会、高齢者向けにウォーキング大会を企画してほしい。
- ・ 夏祭りなど、地域行事をもっと増やしてほしい。
- ・ 夏祭りでは自らも主体的に参加したい。
- ・ 黄金4号線の花植えは春に全校生徒で行っている。⇒大きな労力（と言ってよいかどうか）が、ふるさと公園にも寄与されないか検討
- ・ 再整備で景観が向上するため、写生会を行ってはどうか。
- ・ 公園全体で小中学生が鬼ごっこをしているが、スズメバチがいて怖い。
- ・ 秋になるとクリがなるので、クリご飯を炊いて皆で食べたい。
- ・ 以前、秋の落ち葉や枝を材料としてリースを作った。木工材料として活用したい。伐採木を利用した「樹名板」づくりは特段やりたいとは思わない。
- ・ （一方）自分の作ったものが残るのはうれしい。
- ・ 冬フェスには美術部として雪像づくりに参加していた。部として協力できるものがあれば参加したい。

◆ 公園施設に関して

- ・ テーブルベンチを配し、アウトドア間隔で勉強できる環境があると良い。⇒P-PFIのカフェに期待。
- ・ 公園内はゴミのポイ捨てが目立つ。ゴミ箱を多く設置してほしい。
- ・ 桜の名所にしてほしい。恵庭市内の名所は恵庭公園くらいしかない。
- ・ 池の木橋が壊れているので、撤去または修繕した方が良い。
- ・ 自転車利用者が公園内の至る所に駐輪しており、せっかくある自転車置き場が利用されていない。駐輪場位置や園内自転車規制看板があれば良いのでは。
- ・ 自動販売機を設置してほしい。

◆ その他

- ・ 中学生世代への情報伝達方法で有効なものは？
- ・ 恵庭ふるさと公園が再整備されることは知らなかった。
- ・ 市のホームページは見ない。
- ・ 地域の回覧板に入れたらどうか。
- ・ ポスターにして近隣店舗、学校などに掲示してはどうか。
- ・ 地域情報誌「ちゃんと」は中学生もよく見る。⇒「ちゃんと」掲載が可能か検討。

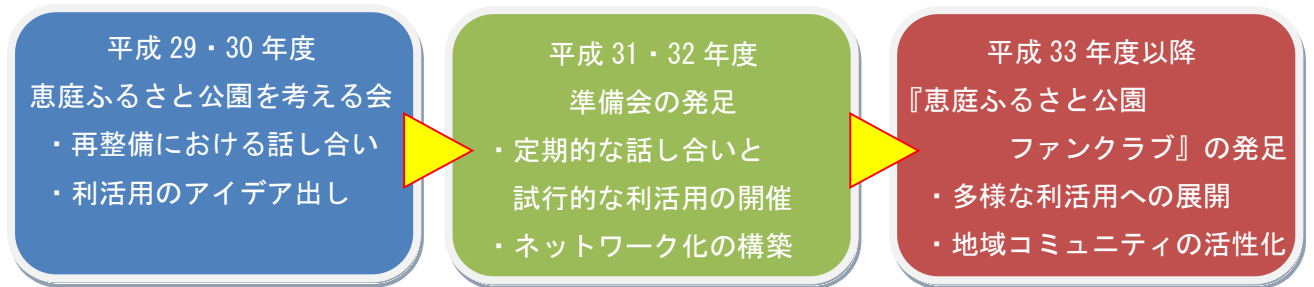
3 今後に向けた課題

3-1 市民協働型の管理運営に向けて

○ 組織化に向けた準備会の立上げ

本ワークショップの参加者は、再整備に関する意見・要望に留まらず、ワークショップを機に様々な公園の利活用に自ら参加し、管理や運営の一部に関わりたいとする気運がありました。

しかしながら、現時点では地域の効率的な携わり方や、携わる方々の横のつながり（ネットワーク化）が整理されていないことから、今後も定期的な話し合い（組織化に向けた準備会の立上げ）が行われることになりました。



○ 地域の高まりをサポートする定期的な催し（市民参加型公園づくり）の開催

恵庭ふるさと公園をもっと良くしたいとした地域の気運の高まりの背景には、地域の自主活動のほか、2箇年に亘って行われた本ワークショップがベースとなっていました。

この盛り上りを維持するためには、恵庭市や指定管理者が中心となって、地域の方々と定期的に市民参加型公園づくりに寄与する催しを開催することが求められます。

本公園における再整備時の市民参加型の公園づくりの催しとしては、以下のものを検討しています。

- ・ カシワ林の林床に植栽するニホンスズランの植栽活動（市内苗圃からの移植）
- ・ 伐採した既存樹木を活用した樹名プレートづくり
- ・ レンガ素材（粘土）による園名板・沿革板づくり

